

平成 27 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270101686		
法人名	株式会社のじり苑		
事業所名	グループホームのじり苑		
所在地	〒030-0122 青森県青森市野尻字今田58番地1		
自己評価作成日	平成27年12月2日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成27年12月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者様一人ひとりの願望や要望を可能な限りかなえ、個別ケアで対応している。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所周辺には、大学・短大・付属幼稚園等があり、介護・看護職を志す学生、園児らとの交流により、地域の福祉コミュニティの形成に貢献している。また、入居者を伴い、地元の小学校での挨拶運動、町内会のごみ清掃への参加など地域密着型サービスの本質を念頭に置き、地域貢献、高齢者の尊厳ある暮らしの充実を目指し、職員一丸となつての取組みがなされている。入居者の事業所での生活も基本的には絶対的な日課は設けず、あくまでも入居者の意向・ベースに合わせたケアの提供に努めている。入居者はみな笑顔で、職員も入居者一人ひとりの思いを最大限尊重しかつ笑顔が引き出せるよう努力されており、アットホームな雰囲気のある事業所である。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り前、会議前に理念の唱和を行っている。	事業所内に掲示し、毎朝唱和する機会を設け、理念の意識付けと共有を心掛け、入居者に対してのケアにおいて実践されるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	あいさつ運動や近隣のコンビニへ買物に出掛け日常的に交流できるよう心掛けている	地域の小学校の挨拶運動や町内会のゴミ清掃に参加したり、近くのコンビニエンスストアに買い物に出掛けたり、周辺の大学・付属幼稚園等を等含め、可能な限り地域と交流出来るよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	納涼祭などを通じ認知症の方との交流を図れるよう取り組むもなかなか出来ていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催し、ご家族様、包括、民生委員の参加頂き行事や事故報告、情報交換を行い頂いた意見などはサービス向上に繋げている	定期的に開催し、事業所の現状や外部評価の取り組み状況等の報告、参加メンバーによる相互的な話し合いがなされ、その内容を実際のサービス向上へ反映させるよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じて報告、相談等行いながら質問や疑問は直接伺う様になっている運営推進会議録を提出し	可能な限り、事業所の実情を伝え、必要に応じて相談の機会を設け、市町村担当者と連携・協力関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の業務の中で身体拘束に繋がらないかを意識し、疑問や不安事は職員間で話し合うようにし意識して取り組んでいる。玄関は夜間、防犯の為に施錠している	マニュアルを整備し、身体拘束にならないよう、日々職員間で意識し、注意し合ってケアの提供に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ユニット共有スペースにマニュアル本をおき学ぶ場を設虐待に繋がるケアをしてないか確認しながらあたっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	共有スペースへ制度についてマニュアルを置き学ぶ機会を設けているが今後、研修も実施していきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学、問い合わせなども含め十分な説明を行っている。その際の疑問や不安は真摯に受け止め職員一同で取り組めるよう話し合っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の請求書と一緒に「お客様の声」とのアンケート用紙を郵送し意見・要望を確認したり、面会時やケアプラン更新時、運営推進会議時など直接意見を聞ける場を設け可能な限り反映させる努力をしている	入居者の意見・要望等には常に耳を傾け、家族等に関してはアンケート用紙の郵送と面会時等に意見・要望を伺い、出された内容は運営に反映させるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員との個人面談や雑談を通じ、意見や提案を聞きやすい様にし真摯に受け止めている	職員が気軽に意見や提案を出せるような雰囲気づくりを意識し、内容によっては職員会議の中で話し合い運営に反映させるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月、自己評価チェックシートでの意識調査や実際のケアの取り組みを確認し不足点については再指導を行い		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の実際のケアへの取り組みを確認し、不足点については再指導しより良いケアを目指している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームの行事への参加し、職員同士、入居者様同士の交流を行いサービスへの刺激をうけ現場にいかせるよう行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に施設見学や本人様への面会、アセスメントを必ず行い要望や不安について十分に聞き解消を図れるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が来苑された際は、必ず近況報告し、いずれの職員も説明、報告、相談ができる様一貫した情報を持っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分なアセスメントを踏まえ必要としている支援を見極めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	買い物、調理、軽作業を通じ「家族」「仕事仲間」の様な関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の、ご様子や身体状況、生活状況を報告。写真等も送付し遠方におられる家族様にも安心頂ける様にしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が今迄大切にしてきた、人や場所へ出かけられるように予定を組んで出掛けている	入居者の友人・知人の面会、馴染みの商店への買い物外出、神社への参拝等、関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	目配り、気配りをし入居者様同士がコミュニケーションが図れるよう職員が介入している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談や介護支援専門員の紹介などを行い情報交換や相談窓口となって不安なく退去できるよう努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に入居者様の考えや、言動、行動、表情を見て、職員同士話し合い、情報共有や意見交換をしている。身近に出来る事はケアプランに反映させ職員で周知し一緒に取り組む様心掛けている	入居者の表情、行動、言動、生活歴等から個々の思いを汲み取れるよう努め、困難な場合は、入居者家族の意向を踏まえたくえで本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	毎日の状態や発言を観察し全職員で観察し情報共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご家族様から聞き取りした生活歴を参考に一人ひとりの現状の把握に努め、軽作業や日常生活動作向上に反映させている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の会議や日々の記録、更新時期には本人様も出来る限りの出席をお願いし担当者会議を開催。現状に合ったプラン、取り組みをしている	入居者本人、家族の意向を踏まえ、現状に即した介護計画をその都度作成するよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や申送りを活用し情報共有し日々見直しをしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望や心身の状態に合わせて、職員本位にならないよう対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源への取り組みはしていないが安全、安心な暮らしができる様に努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携している医療機関とは常時連絡を取り合い、適切な対応するよう支援し、外部の病院を受診されている方へも同様の対応をしている。相談や不安事がある際も連絡を密にし関係を構築している。	事業所の協力医療機関の定期的な往診の他、入居者本人並びに家族の希望によるかかりつけ医の受診支援を行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常時、提携病院との連絡、相談を行い適切な対応をしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日々、報告、連絡、相談を行い、入居者、職員不安なく過ごしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	十分に説明及び話し合いを行い、医療機関、職員とも共有し必要時は研修も行なっている。しかし、地域の関係者との協力への取り組みについては、行っていない	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時に本人並びに家族に説明し、その後も随時話し合いの機会を設け、主治医を含め、意思確認と方針の共有に努め支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は、すぐに対応できるよう連絡網を貼付。定期的な訓練は行っておらず指示のもと対応している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施し、新入職員を率先させ訓練を行っている。避難方法、通報方法(装置)、消火器の取り扱いなど入居者も一緒に参加し把握している	夜間と日中を想定し年2回の避難訓練を実施し、利用者が安全に避難できる方法を全職員が身につけるよう努めている。	地域との協力体制の構築として、地域住民等を交えた避難訓練の実施や有事の際の協力内容の確認等、更なる発展の為、新たな試みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が周知、徹底している	利用者の人格の尊重とプライバシーの保護を常に意識するよう心掛け、気になる対応や言動に関しては職員同士で話し合い、統一したケアがなされるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自ら選択できるような質問や自己決定できる様傾聴し対応している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り希望にそえる様に対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみ整容が出来るよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を取り入れた献立や、嫌いな食べ物を把握し代替食を提供し食事を楽しんでもらえるように対応している	入居者の嗜好を踏まえた献立作成を心掛け、入居者と職員と一緒に食事の準備や同じ食事、後片付けをし、楽しく食事出来るよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量と水分量は常に記録し確認している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日、毎食後、口腔ケアを徹底し口腔内の観察を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	出来る限り自立に向けた支援を行っている	入居者個々の排泄状況を把握し、入居者の表情や行動、排泄パターンをもとに、適切な声掛けやトイレ誘導を行い、可能な限り排泄の失敗が軽減されるよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の声がけ乳製品の摂取等を取り組みなが便秘予防へ取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	無理強いせず入浴を実施し希望があれば、いつでも入浴出来るよう支援している	入居者の希望によりいつでも入浴出来るよう体制を整え、声掛けや雰囲気作りにより入居者が楽しんで入浴出来るよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣を把握しながら、いつでも休んで頂ける環境にし一人ひとりの安眠出来るよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容を職員全員で把握し服薬綴りを必ず確認し変更時は職員間で送りを行い変化があった場合には担当医へ訪告している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握し役割などを交えて軽作業へ取り組んで頂き気分転換を図りながら支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設内の買い物、ドライブ等の外出機会を出来る限り多くもうけ支援している	入居者の楽しみや気分転換に繋がるよう、日常的に外出の機会を設けている。また家族の協力を得ながら、季節に応じた外出行事の実施に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほぼ所持はさせていない。一緒に買い物へ出掛けた時は財布からお金を出して頂く様促すが上手く支払えず職員代理にて支払っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも対応できるよう伝え訴え時には快く対応している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースへは写真、飾りつけ等を工夫し生活感、季節感を感じて頂ける様に工夫し温度、湿度管理を行っている	リビングや廊下等の共用空間には、季節感のある飾り付けや行事の写真等を飾り、入居者や家族、来訪者が楽しみ、居心地よく過ごせるような工夫が施されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子を置き、いつでも誰でも自由に利用できる様工夫し対応している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	気持ちよく過ごせる様、寝具交換を定期的に行い入り口、窓等の光や出入り口を配慮しベッドの置き場所を工夫し対応している	入居者、家族と話し合い、使い慣れた家具や布団、位牌等が持ち込まれている居室もあり、入居者が好きな写真等が飾り付けられ、利用者が居心地よく過ごせるような工夫が施されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危機管理を持ち安全面には十分配慮している		